

## 谷津田保全活動への抱負

新しい年、2016年をいかがお迎えですか？ 本年も谷津田の活動へのご支援をよろしくお願ひします。  
下大和田や小山の谷津田で活動している皆さんに、今年の抱負を語っていただきました。

### ★下大和田

- ①ホタルプロジェクトの立ち上げたい（ゆくゆくは千葉市内の移入西系のゲンジボタルを地のものに換えたい）。
- ②皆が下大和田で撮った動植物の写真を記録として残せるようにしたい（環境省の生物多様性保全上重要な里地里山の選定を受けて生物の記録の重要性が増した。個人の記録として持つのではなくCEICの記録として持つ）（網代春男）。
- ・開墾して池を作るぞ！（石井克実）。
- ・子どものキラキラした眼をみるのは親の喜びです。この子も、私が経験した深い深い親の喜びを、いつか経験できますように！ そうするには、何代先までも、この生態系が生き抜ける環境を！ 人間が邪魔しませんように！ そして、私が邪魔しませんように！ そんなことを願って一年暮らしていきたいと思います（石井美佐代）。
- ・今年も田んぼ作業は無理なので、裏方として皆様の活動を支援したいと思います（石橋絃吉）。
- ・田んぼのイベントにはできるだけ参加すること（小田信治）
- ・生きもの田んぼの大切さを一人でも多くの人に伝えていきたいです（小西由希子）。
- ・健康に留意して楽しく保全活動に参加したいと思っています（渋谷雄二）。
- ・16年目の下大和田YPPです。一度原点に戻って自然を見つめ直したいと思っています（高山邦明）。
- ・今年もたくさん笑顔の写真を撮影したいと思います（田中正彦）。
- ・今年是不耕起栽培のお米作りを徹底的に極めて、収穫量を昨年よりも多くなるように頑張ります（田村光範）。
- ・心身共に健康でいられる為にも、皆さんと下大和田での活動を楽しみたいと思います（平沼勝男）。
- ・谷津田で子供たちと探検をしたり、谷津田運動会をして楽しく遊び、谷津田を好きになってもらおうと思います（南川忠男）。



親子ザルのクラフト（渋谷雄二さんの作品）

### ★小山

- ・稲富ファミリーの抱負
  - \*直彦（父）：おたまのしっぽ田んぼで実施中の継代稲作は3代目となります。タフな孫の出現に期待したい所です。
  - \*理枝（母）：今年も変わらず、田んぼに来てくれる子ども達の、きらきら輝く笑顔に沢山会える様に頑張ります。
  - \*晴彦&真理：田んぼの水循環と微生物環境調査のスタッフとして活躍してもらいます。
- ・できる時に、やりたい事を（今川友子）。
- ・今年も地元の方に感謝の気持ちを忘れず、お手伝いに来てくださる方々にも感謝の気持ちを忘れず、みなさんと仲良く作業したいと思いますので、よろしくお願ひします（江澤芳恵）。
- ・田んぼに通うようになって十年。みなさまや無数の命達から数多の事を教えていただきました。誠に有り難うございます。十一年目となる今年は例年以上に初心にかえて日々命あることを感謝したいと思います（大谷祥）。
- ・少し長い目で見て小山での活動をどのように進めていくのか考えながら今年も米づくりに励みたいと思います（高山邦明）。
- ・昨年の天候不順で刈った稲も脱穀できず干したまま…人手不足で稲刈りもままならず…そうこうしているうちに、オダに干した稲束や田んぼの稲穂が「何物」かに食べられてしまい、コシヒカリの収穫は、例年の1/3ほど。今年は耕地面積を広げ…と大きく宣言するのはまず無理なので、天気予報をこまめにチェックし、効率よく、田植え、稲刈り、脱穀を行えるようにしたいです。また、この活動を始めて、11年目ですが、田んぼの草取り、畦の草刈りをこまめに行ない、田作りの基本をしっかりやっていきたいと思ひます（松下恵美子）。
- ・田んぼの手入れをもう少し進めたい（柳町健治）。
- ・よりゆっくり、より楽しんで（米澤美紀）。



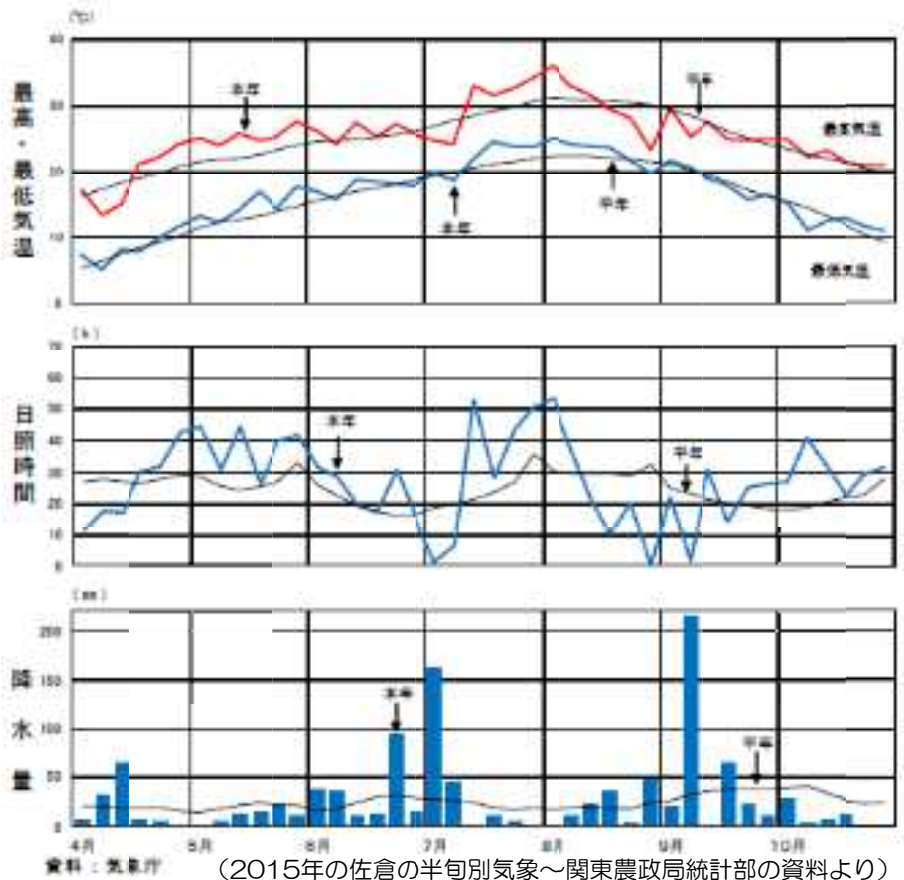
小山の初日（2016.1.1）

# 2015年の下大和田のお米の生育状況

昨年の下大和田の米づくりは、4月4日の苗代への種まきに始まり、田植えは5月16日、稲刈りはコシヒカリと黒米、農林一号が9月12日、緑米と赤米が10月24日に行われました。

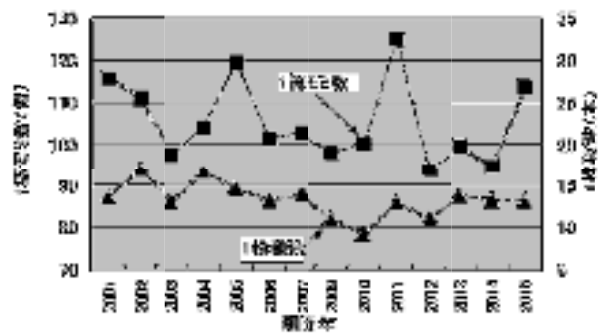
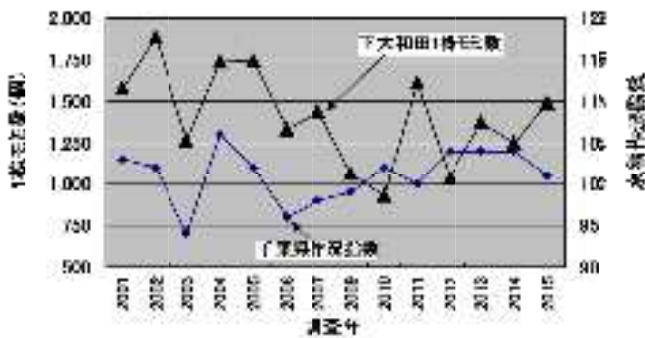
この間のお天気の様子を気象データを見ながら振り返ってみます。

苗代を作った4月、特に前半は天気が崩れる日が多く、日照時間が少なめでした。田植えをした5月から6月にかけては気温が上がり、気象庁が統計を開始した1946年以降、最も高温となったそうです。入梅は6月3日（平年は6月8日）とほぼ平年並みだったのに対して、梅雨明けは7月10日（平年は7月21日）とかなり早く明けました。梅雨の期間は短かったのですが3つの台風の上陸・接近の影響もあって降水量よりも3割ほど多くなりました。出穂期の梅雨明けから8月中旬にかけては猛暑の毎日でしたが、お盆を過ぎると一転して急に涼しくなり、曇りや雨の日が多い不順な天候となりました。特に9月上旬は大きな被害をもたらした台風18号による大雨（“平成27年関東・東北豪雨”）などの影響もあり、記録的な降水量になりました。9月中旬から10月下旬にかけては、大陸の高気圧に覆われ晴れて日照時間は多かったのですが気温は低温傾向でした。



資料：気象庁 (2015年の佐倉の半月別気象～関東農政局統計部の資料より)

8月16日のYPPのイベント、かかしづくりの時にみんなで田んぼのコシヒカリのモミ数を数えて、実り具合を調べました。これまでの15年分のデータを表示したのが下の図です。



今年は一株あたりの穂の数は平年並みでしたが、一つの穂に付いたモミの数がとても多いのが特徴的でした。農政局が12月に発表した統計でも同じようにモミ数が多いことが報告されていて、5月上旬以降の高温・多照のおかげとのことです。分けつは旺盛で過去に例のない速さの生育だったようですが（出穂も早め）、7月上旬の低温・日照不足と、出穂後の高温や8月中旬以降の低温・日照不足の影響でお米がうまく熟さなかったため、作況は「やや不良」となっています。稲刈りの時にコシヒカリの株が軽いと感じました。

9月から分けつや出穂の季節になる緑米は天候不順の影響を受け、モミに緑色のカビの塊ができる“稲こうじ（いなこうじ）病”が発生しました。

お天気の影響を直接受ける米づくりでは、水の管理や肥料の量を調整していかにその影響を少なくしておいしいお米をたくさん収穫するのがプロの技です。これが15年めになるYPPの米づくりですが、週末だけでその域に達するのは無理ですが、その分、お天気とお米の生育の関係がよくわかるのがおもしろいところです。

（高山邦明）





# 里山たんけんレポート

## 第191回 下大和田谷津田の観察会とゴミ拾い

2015年12月6日(日) 晴れ

これから冬の間はバードウォッチングを兼ねて行います。まず、双眼鏡の使い方の練習から始めました。林内は拾両、百両、万両と称されるヤブコウジの仲間が揃って赤い実をつけていました。歩き始めてすぐタイミング良く斜面林の木にノスリがとまっていた。早速、双眼鏡が役に立ちました。スコープでも見ることが出来ました。アオジの声がブッシュの中から時々聞かれますが全体としては冬鳥がまだ少ないようです。成虫越冬するバッタの仲間やまだ生き残っている虫の仲間にも出会いました。お腹が大きく膨らんだニホンアカガエルも飛び出しました。カマキリの頭のようなカラスウリの種と捕まえたチョウセンカマキリの頭を並べて見ましたが、ほんとにそっくりです。トンボはアキアカネとマユタテアカネ2種とオオアオイトトンボがまだ見られました。とても立派なびっしりたくさんの実をつけたツルウメモドキが見事でした。途中で見つけたヤマノイモの実の殻とノイバラの赤い実で見事なリースを作った方もありました。衣服にいっぱいついたイノコズチの仲間、センダングサの仲間など植物の種散布の戦略に見事に引っかかりながら巡った観察会でした。

(参加者 大人13名、大学生1名、小学生5名、幼児4名； 報告：網代春男)

## 第185回 下大和田 YPP「収穫祭」(兼、第13回米づくり講座)

2015年12月12日(土) 晴れ

毎年の米づくりを締めくくる収穫祭にこれまでで最高の100人を超える方が参加してくれました。収穫祭の目玉は何と言ってもお餅つきです。今年収穫した緑米を使います。一つのせいろに水に浸したお米を2升入れ、それを2段に重ねて蒸かします。蒸気が上がってくるまでに時間がかかるし、蒸け上がるまでさらにひとしきり待ってよいよもちつきです。ホカホカのお米を臼に移し、まずは杵で練って米粒をつぶして全体をペースト状のまとまりにしてからペタン、ペタンの始まり。ヨイショ、ヨイショのかけ声に合わせて大人から小さな子どもまで順番でつきました。つきたてのお米は醤油やきなこ、あんこなどを付けて食べました。4臼つきましたが、あつという間になくなるほどのおいしさ。ほかに焼き鳥やイカ焼き、焼きそばなどたくさんのメニューがあってお腹いっぱい満足。恒例のアトラクション、谷津田ウルトラクイズもあって子どもたちが参加。今年の米づくりを締めくくる楽しいイベントでした。



これまで最高人数で大にぎわい(撮影：田中正彦)

谷津田ウルトラクイズもあって子どもたちが参加。

今年の米づくりを締めくくる楽しいイベントでした。

(参加者 大人62名、高校・大学生8名、小中学生30名、幼児12名、報告 高山邦明)

## 第126回 小山町 YPP「もみすり」

2015年12月27日(日) 晴れ

小山で学校たんぼの活動をしている大椎小学校の一角をお借りしてもみすりをしました。学校たんぼの米づくりを体験した5年生の女の子が3人お手伝いに来てくれました。学校たんぼだけでは物足りず、もっと作業したいと稲刈りの時も力を貸してくれたメンバーです。もみすり機を2台並べて順番にもみすりしていきます。コシヒカリや黒米は簡単ですが、緑米や赤米はモミから細いとげのような“のぎ(芒)”が伸びていてもみすり機の入り口で引っかかり易いのでちょっと手間です。のぎがとても長い赤米は特に大変。それでも収量がそれほど多くないので、予定の時間でもみすりを終え、分配まで済ませることができました。



年の瀬が迫っていましたが何とか年内に米づくりの作業を終えることができました。今年の米づくりに参加された皆さん、お疲れさまでした。

(参加者 大人6名、大学生1名、小学生3名、報告 高山邦明)

## <谷津田・季節のたより>

### 小山町

12月20日 唐箕かけをしていると林からシジュウカラ、メジロ、コゲラなど鳥たちのにぎやかな声がしていた（高山）。

### 下大和田

12月18日 田んぼに薄氷が張る。今冬初めて見た（網代）。

12月25日 青い鳥、ルリビタキの雄が東屋の山に来ていた。とてもきれいだった（網代）。

## イベントのお知らせ

谷津田ってどんなところ？ と興味をお持ちの方、お米づくりを経験してみたいなと思っている方、YPPのイベントには大人から子どもまで、はじめての方でも好きな時にご参加いただけます。家族で、お友達どうして、もちろん、お一人でも気軽にいらして下さい。

連絡先（いずれも）：ちば環境情報センター（TEL&FAX：043-223-7807 E-mail：hello@ceic.info/）

ご注意：・車でこられる方は必ず指定の駐車場に止め、農道などにおかないください。

・近くにトイレがありませんので、集合前に一度済ませておくご協力をお願いします。

・小学生以下のおさんは保護者同伴で参加ください。

・けがや事故がないよう十分な注意は払いますが、基本的に自己責任でお願いします。

## ▼下大和田 YPP 第 186 回「どんど焼きと昔あそび」

### 第 187 回「アカガエルの産卵調査と谷津の手入れ」

年明けはどんど焼きからスタート。火起こしして点火した暖かな火を囲みながら昔ながらのけん玉やベイゴマなどを楽しみましょう。2月は田んぼを巡って二ホンアカガエルの産卵状況を調べます。暖冬の今年の産卵がどうなるのか興味津々です。林や田んぼの手入れもします。

日時： どんど焼き 2016年1月16日（土）9時45分～14時

アカガエル調査 2016年2月13日（土）9時45分～14時

\*いずれも小雨決行

場所： 千葉市緑区下大和田谷津田（ちば・谷津田フォーラムのホームページで地図をご覧ください。

また、ご連絡いただければ地図をお送りします。）

集合： 中野操車場バス停向かいラーメンショップ脇に9:45（JR千葉駅10番成東あるいは中野操車場行きのかばフラワーバスで45分<千葉駅発8:25、8:40など> 料金は520円）

持ち物： 弁当、飲み物、長靴、帽子、軍手、敷物、

どんど焼きの時は、昔あそびの道具、どんど焼きで燃やしたいもの（正月飾り等）など。

参加費： ちば環境情報センター会員および家族100円、一般300円、小学生未満無料

主催： ちば環境情報センター 共催： ちば・谷津田フォーラム

## ▼第 193 回 下大和田 2 月の谷津田観察会とごみ拾い

二ホンアカガエルの産卵が始まっている頃です。卵塊を探したり、冬鳥を観察しながら谷津を散策します。

日時： 2016年2月7日（日）9時45分～12時 ☆小雨決行

場所： 千葉市緑区下大和田谷津田（同上）

集合： 中野操車場バス停向かいラーメンショップ脇に9:45（下大和田 YPP に同じ）

持ち物： 筆記用具、飲み物、長靴、帽子、敷物、ゴミ袋、午後まで活動する方は弁当など

参加費： 100円（小学生以上、資料代など）

主催： ちば環境情報センター・ちば・谷津田フォーラム

## ▼ちば里山くらぶ活動日 谷津田の森と水辺の手入れ

日時：2016年1月9日（土）、1月15日（金）いずれも9時45分～15時

場所：千葉市緑区下大和田谷津田（同上） 持ち物：飲み物、弁当、長袖長ズボンの服装、長靴、帽子、敷物

主催：ちば環境情報センター

## ▼小山町 YPP

1月の活動はお休みです。2月からよろしくお願ひします。

編集後記 皆さん、新年あけましておめでとうございます。本年も YPP の活動へのご支援をよろしくお願ひします。さて、今年はずいぶん暖かな正月と思っていたところ、ニュースによると記録的な暖冬とのこと。暖かくて助かるなどと言っていないような状況で、冬のリゾート地では雪がない、氷が張らない、千葉では江戸前の海苔がちっとも生育せず出荷できないなど深刻な問題になっています。3日に谷津を散策していたらモンキチョウがヒラヒラ飛んでいてびっくり。この暖かさで羽化してしまったようです。そうなるとう気になるのは二ホンアカガエルの産卵が始まるタイミングです。かなり早くなりそうですので、谷津田の様子に目が離せませんね。

（高山 邦明）